

エレミヤ書31章31-34節 「新しい契約」

1A 古い契約に対する違反 31-32

1B 「見よ、その日」 31

2B 石の板 32

2A 心の中の律法 33

1B 御霊の注ぎ

2B 神の一方的な真実

3A 主の知識 34

1B 内なる油注ぎ

2B 小さき者

4A 完全な罪の赦し

本文

エレミヤ書 31 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、31 章 22 節まで来ました。午後礼拝で、31 章 23 節から 33 章までを見ていきたいと思います。今朝は、31 章 31-24 節に注目したいと思います。

「31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ—— 33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。34 そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。』」

私たちは、前回の学び 29 章から、神の備えておられる幸いな契約について読んでいます。エレミヤは、ユダの国、そして都エルサレムがバビロンによって滅びなければいけないことを預言しなければならなかった、悲しみの預言者でした。しかし、その中でバビロンによって捕え移されてから七十年後に、彼らが帰還して幸いを得るとい希望も預言できました。この慰めの言葉を、私たちは読んでいっています。

そして、今読んだところは、エレミヤ書において最も重要な約束の一つとなっています。それは、

私たちの聖書の名前ともなっている、「新しい契約」の約束です。旧約聖書というのは、古い契約のことです。32 節に書かれているように、神がシナイ山のふもとで、イスラエルの民と結ばれた契約です。新約聖書というのは、新しい契約のことです。イエス様が、十字架に付けられる前の夜に、過越の食事を共にして、そのぶどう酒の杯について、「ルカ 22:20 この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」と言われた時の新しい契約のことです。なぜ、イエス様の血が、ここ新しい契約の印となるのかについては、後でお話したいと思います。

私たちは、エレミヤ書を学ぶにあたって、人のあり方にとってとても大切なことを学んでいます。それは、人は、取り決めによって生きていることを示していることです。これは別に、何かだれかを契約書を交わしている訳ではありません。けれども人生の中で、契約を結んで生きているとって良い、取り決めの中に生きています。その一つは、「自分の行ない」の中に生きています。自分がこれをしなければいけない、という信条や規則みたいなものがあって、それに従って生きようとしています。それを行っていれば自分は生きていると確認することができ、それができないと自分は生きているに値しない、と絶望してしまいます。「いいえ、私はそのようなものを持っていません。」と反論するかもしれませんが、しかし、自分がこれは絶対にそうだ、こんなことは当たり前だと思っていることが、実は他の人はその価値観を共有していません。自分は自分なりの信条があって、それに従って生きようとしています。そのことを自分で成し遂げようとするのが、一種の取り決めになっているのです。

もう一つは、「制度」の中に生きていることです。これもまた、自分自身ではしばしば意識していないことです。日本においては、「家の制度」というものが深く根付いています。家の制度というのは、それぞれの家族や親族が、仏教の寺に属しているので、その中に生きなければ村八分にされるという取り決めです。自分は実は自分のものではなく、家族や親族の一部となっており、あるいはもっと大きな共同体の中に生きていて、ゆえに絶えず人を気にしていなければいけないように自分自身で縛っています。夫のことを気にして自分の行動を縛ります。また親がどう考えるか、とすることで縛ります。私は、キリスト者として生きていくかどうか考えていた時に、長男で墓を守らなければいけないという思いが大きな圧迫となりました。

このような取り決めが私たちの意識の中に深く根付いていますが、イスラエルの民は、神からシナイ山のふもとで与えられた取り決め、契約の中に生きていました。しかし、その 800 年以上の長い歴史の中で、自分たちが、それらの命令をことごとく破ってしまったことを証明してしまいました。神に選ばれた民となっていたのに、全く神を知らないかのように彼らは生きようになりました。周囲の住民が拝んでいた偶像を拝み、道徳的に墮落した姿も真似て、快樂によって望まぬ妊娠をしたら、生まれた子を火の中に通すということまでしました。つまり、エレミヤ書は、「自分たちの行ないという取り決めでは、決して救われぬ。」ということを明らかにした書物です。

それに対して新しい契約は、「神がキリストにあってしてくださったことを、信じて受け入れる。」という取り決めです。自分が何かをして成し遂げる取り決めではなく、私がことごとく自分で自分を救えない、罪深く、邪悪な人間であることを神は知っており、それで神が一方向的にキリストにあって救ってくださったことに生きることを意味します。キリスト教を、自分が何か成し遂げるものとしてみれば、瞬く間に葛藤を覚えるでしょう。しかし、キリスト罪人を救うために来られたのだというものだと知ったら、瞬く間にそこには大きな喜びと楽しみが湧き出ていることを知るでしょう。みなさんは、どちらの取り決めによって生きているか、考えてご覧になるとよいでしょう。

1A 古い契約に対する違反 31-32

もう一度、31-32節をお読みします。「**31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——**」

1B 「見よ、その日」 31

「**見よ。その日が来る。**」とあります。これは、主がエレミヤに、イスラエルを完全に数ってくださる終わりの日を指しています。イスラエルの救いの完成の日と言ってもよいでしょう。新しい契約を結んで完成してください。パウロは、イエス・キリストが来られたことによって、キリストを信じる者たちに、この日が来たことを宣言しています。「2コリント 6:2 神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」イスラエルが民族として救われるのは、イエスの再臨を待たねばなりません、その前にキリストにあって新しい契約の日を迎えることができるようになっています。

2B 石の板 32

新しい契約は、「**エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。**」とされています。シナイ山のふもとで主が結ばれた契約と、新しい契約の根本的な違いは何かと言いますと、神の律法、神の掟が、「石の板に書かれているのか、それとも心の板に書かれているのか」であります。33節に、新しい契約は心の板に書かれているとありますが、古い契約は石の板に書かれているのが特徴です(出エジプト 34:28)。

ですから、聖書の言葉を見て、神の言葉を見て、その文字を守っていかうとするのが、古い契約の特徴です。「では、新しい契約では守っていかないのか？神の言葉の文字をないがしろにするのか？」と問われるかもしれませんが、そうではありません。しかしここで、「**彼らはわたしの契約を破ってしまった。**」とあるように、問題はそれらの戒めを守ることができないということなのです。戒めを守ろうにも、心の中に神を主とすることができない、むしろ自分自身を人生の主人としていく罪の性質があるからです。「ローマ 7:8」自分をがんじがらめにしている、自分を主として神としたい

欲望は、どんなに戒めを守ろうとしても制御することのできないものです。むしろ、守ろうとすればするほど、自分がその戒めを守れないことに気づき、自分は死んだものなのだと気づきます。

あの金持ちの青年の葛藤ですね。彼は、盗んではならない、殺してはならない、姦淫してはならない、両親を敬え、という戒めを守って生きていました。ところが、自分の持っている金を手放すことができない、つまり、「わたしの他に、他の神々があってはならない。」という戒めをことごとく破っていたのです。それで彼は悲しい顔つきをして去っていましたが、イエス様は、「金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」と言われました。それで、弟子たちが、「それでは、だれが救われることができるのだろうか。」と言ったら、イエス様は、「それは人にはできないことですが、神には、そうではありません。どんなことでも、神にはできるのです。(マルコ 19:27)」と言われました。そう、新しい契約は、らくだが針の穴を通ることよりも難しい救いを、私たちに提供してくださる、神の全能の力の現われなのです！

2A 心の中の律法 33

それで 33 節を読みます。「**彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。**」

1B 御霊の注ぎ

石の板に書かれていた律法が、心の板に書き記すと言われます。板を私たちが口から腹の中に飲み込むのでしょうか？いいえ、そうではないですね。主ご自身が私たちの心を新しく変えてくださるのです。もっと具体的には、神が御霊によって私たちの死んだ霊にご自分の命で新しく生まれさせてくださって、私たちの内に住んでくださるのです。イエスを信じる者に、御霊が罪の洗いと、心を一新させる働きを行ってください。「テトス 3:4-5 しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現われたとき、神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」

同じ時代、既にバビロンに捕え移された者たちの中に、預言者エゼキエルがいました。彼も主から新しい契約について啓示を受けていました。「エゼキエル 11:19 わたしは彼らに一つの心を与える。すなわち、わたしはあなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。」新しい心を与えるのに、神の霊を新しく注ぐと言われています。それで、イエス様はイスラエルの教師であるニコデモに対して、「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることはできません。(ヨハネ 3:5)」と言われました。皆さんは、御霊による新しく生まれる体験をしたでしょうか？そして、したとしても、再び自分の肉の力によって神を喜ばせようとする生活に戻っていないでしょうか？ガラテヤ人は、御霊によって始まったのに、肉に拠って完成させようとしていました。バビロン捕囚前のユダヤ人のように、自分の力でやり遂げよ

うとすれば、滅びを自ら招くだけです。御霊によって生きるのです。聖霊に導かれるのです。御霊によって生きるからこそ、肉の行いを殺すことができます。

2B 神の一方向的な真実

そしてここで、31 節から 34 節まで、だれがこの契約を結ぶと言われているか確かめてください。「わたしは」と言われています。先に話しましたように、主ご自身が行なってください。古い契約においては、「あなたがたが、わたしに聞き従い、わたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。(出エジプト 19:6 参照)」と言われていました。主が憐れみと恵みによって、行ってくださいます。私たちがどれだけ神に忠実なのか、ではなくて、神が真実を尽くしてください。

いかがでしょうか、私たちは何か自分たちに良からぬことが起こると、「これは、何が原因だろう。」と問いつめます。必ず、因果応報があると考えます。この考えは私たちを窮屈にします。窒息させます。クリスチャンとて、そのような運命にあると思ってしまう。確かに、神は愛によって、懲らしめを与えられます。前回学んだように、罪定めはありませんが、罪の結果をある程度受けるようにされます。けれども主は、必ず恵みを持って解放してくださいます。主の真実がすべてのことを運ばせてくださるのです。自分の人生もこの世界も、神の恵みの物語なのです。私たちが何をしたか？ではなく、神が何をしておられるのか？ということ、そしてこのような私たちにも関わらず、それでも神が何をしてくださるのか？という神の真実の物語なのです！そして、それを個人的に、現実のものとして、生々しく証しするのが、私たちです。

3A 主の知識 34

そして 34 節を見てみましょう。「そのようにして、人々はおもはや、『主を知れ』と言って、おのこの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。」

1B 内なる油注ぎ

主を知るというのは、神を人格的に、親密に知るということです。それを古い契約によれば、互いに「主を知れ」と言って教えなければいけませんでした。それが、ある意味で家の制度など、制度に通じる部分があります。互いにつながっていることを、仏式の葬儀や墓など、外側にあるものによって確認しあうことによって、成り立っています。しかし、そこにはしばしば、遺族や先祖のことを思って、その死を悼んでいるわけではありません。自発的な、主体的な行為ではないのです。聖書的に言えば、そこには「愛」がありません。キリスト教においても、異端やカルトはこのことを行います。自分たちの教えをしっかりと学び、習得していないと、あなたは村八分ならず、教会八分にされるぞ。絶えず、組織の中に留まることを洗脳され続けなければいけなくなります。

しかし、人が人を教えていかなければいけないのではなく、聖霊が一人一人の心に教えてくださ

る業があります。「1ヨハネ 2:27 あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、..その教えは真理であって偽りではありません。..また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。」そうです、キリストを信じる者は聖霊が内に住んでくださり、聖霊が神の真理を教えてくださいます！そして、聖霊が賜物を与え、教える者は教えますが、それぞれがその教えが神の真理であることを確認するのです。誰かが誰かを教えるという、人による支配ではなく、神が聖霊によって一人一人を教え、支配し、導く、聖霊による支配なのです。

2B 小さき者

そして、「**身分の低い者から高い者まで、わたしを知る**」とあります。この順番が大切で、高い者から始まるのではなく、低い者、小さき者から主を知るようになります。イエス様が来られた時に、主はこのことを何度となく言われ、こう祈られました。「マタイ 11:25 天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。」主のところには、心を貧しくしていた者たち、自分の罪のゆえに悲しんでいた者たち、自分を否んでいた者たちが集まってきました。そして、律法学者やパリサイ人たちが悟ることのできないことを、主ご自身の口から聞くことができました。けれども彼らでさえ、それで悟ることはできなかったのですが、しかし主が甦り、昇天されてから聖霊が与えられてから、悟りが与えられたのです。そして、主を信じる者たちが、学者でさえ知り得ることのできないことを知っています。

ですから、新しい契約では、特権階級は存在しません。教会においては、中学校卒業の兄弟が、大学教授の新しい信者を教えていることさえ存在するのです。事実、アメリカのあるカルバリーチャペルでは、高校も確か卒業できなかった人が救われて、それで牧師になり、その教会に国会議員かワシントンから来た役人で、ワシントンの議員が集まっている聖書研究会で教えるように頼まれたのです！聖霊が神を知るようにさせてくださいます。

4A 完全な罪の赦し

そして、新しい契約の最後の約束は、完全な罪の赦しです。「**わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ**。」二度と罪を思い出さない、というのが罪の赦しの本質を示しています。罪を赦すのは、思い出すのであれば、その効力を失わせます。過ぎ去らせるのが、赦しの本質です。そこで主は、「二度と思い出さない」と言われます。主はペテロに、赦しについて教えられました。思い出せますか？彼は兄弟が罪を犯して、何度までなら赦すべきか？尋ねました。七度までですか？と聞いたところ、主は、「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。(マタイ 18:22)」と言われたのです。七の七十倍ですから、490回赦す、ということですが、そんな数えているうちにバカバカしくなって、もう思い出さないと決めるはずですよ。

これが赦しの本質であります。そんなことをどうしたらできるのでしょうか？人にはできないけれども、神にはできるのです。「エペソ 4:32 お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」キリストにおいて神が赦してくださった、というのは、主が十字架の上で祈られた祈りです。「そのとき、イエスはこう言われた。「ルカ 23:34 父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」主が十字架の上で、私たちの犯したすべての罪のために死なれました。それは、神のほうで、私たちの罪を見過ごすと決心された現れだったのです。ですから、イエス様は、ご自身が流される血潮が、新しい契約の印であると言われたのです。

皆さんにとって、新しい契約の約束がご自分のものとなっているのでしょうか？「見よ、その日が来る。」と主が言われた言葉を、パウロは、「今は恵みの時、今は救いの日」と言いました。イスラエルへの救いは後のことですが、一人一人に対しては主は今日、それをこの日にすることができるのです。自分の犯した罪を赦されたいですか？一部ではありません、全ての罪を赦すと神はお決めになりました。これまでの自分の行ないでは、もう破綻していると分かっている人には、ただキリストのところに行って、神の憐れみを請ってください。